

南
町
遺
跡

伊丹市

南町遺跡

— 伊丹南町団地建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

兵庫県文化財調査報告書

第443冊

平成25(2013)年3月

兵庫県教育委員会

兵庫県教育委員会

伊丹市

南町遺跡

— 伊丹南町团地建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成 25(2013)年3月

兵庫県教育委員会

例　言

- 1　本書は、伊丹市南町2丁目29番地他に所在する南町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2　本調査は、伊丹南町団地建替事業に伴うもので、兵庫県住宅供給公社の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部（本発掘調査・平成23年度整理作業）・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部（平成24年度整理作業）を調査機関として実施した。
- 3　調査の推移
(発掘作業)
確認調査　平成20年8月22日
　　実施機関：兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 小川弦太
本発掘調査 平成21年9月1日～平成21年10月14日
　　実施機関：兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 岸本一宏・西口圭介
工事請負：株式会社 新日本建設
(出土品整理作業)
平成23年4月1日～平成24年3月31日
　　実施機関：兵庫県立考古博物館
平成24年4月1日～平成25年3月31日
　　実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
- 4　本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 岸本一宏と西口圭介・久保弘幸が担当した。
- 5　本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。
6. その他の記載項目
 - ・ 遺物写真は、株式会社タニグチフォトが撮影した。
 - ・ 調査成果の測量は、国土地理院測量基準点(20B49)を使用した。座標は世界測地系に基づくもので、調査地は第V系に属する。
 - ・ 本書に用いた方位は座標北を示す。また、標高は東京湾平均海水準を基準とした。
 - ・ 塗輪の胎土分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

本文目次

第1章 遺跡の環境	(1)
第2章 調査の成果	(5)
第1節 調査に至る経緯	(5)
第2節 調査区の状況	(5)
第3節 出土遺物	(10)
第3章 まとめ	(12)

表目次

第1表 遺跡名	(3)
第2表 遺物観察表	(図版10下)

本文挿図

第1図 遺跡分布図	(2)
第2図 調査地点位置図	(4)

図版目次

図版 1 A・B・C地区平面図	図版 7 C地区粘土探掘壙III
図版 2 A地区平面図・断面図・粘土探掘壙断面図	図版 8 C地区粘土探掘壙IV
図版 3 B地区平面図・断面図	図版 9 C地区粘土探掘壙V
図版 4 C地区平面図・南壁断面図	図版10 C地区粘土探掘壙VI・遺物観察表
図版 5 C地区北壁断面図・粘土探掘壙 I	図版11 出土遺物 I
図版 6 C地区粘土探掘壙 II	図版12 出土遺物 II

写真図版目次

写真図版 1 A地区的遺構 B地区的遺構	
写真図版 2 C地区的遺構 I	
写真図版 3 C地区的遺構 II	
写真図版 4 C地区SX-C06出土石器 各地区出土円筒埴輪 A地区出土中世土器・瓦	
写真図版 5 B地区出土中世土器・瓦・出土古代土器 C地区SX-C21出土土師器甕	
写真図版 6 C地区SX-C13出土土器 C地区出土土器・鉄滓	
写真図版 7 C地区出土中世土器 I・同出土中世土器 II ガラス製品 B地区SD-B02出土木製品	

第1章 遺跡の環境

今回の南町遺跡の調査の結果、古墳時代中期～後期および中世の遺構と遺物を検出したが、ほかに縄紋時代の石器や古墳時代後期および奈良時代の遺物も出土した。

周辺に存在する縄紋時代の遺跡のうち、沖積地に存在するのは小阪田遺跡（70…第1図・第1表の番号。以下同じ）、大阪空港遺跡A地点(72)、大阪空港遺跡B地点(73)、森本遺跡(76)、岩屋遺跡(77)、口酒井遺跡(78)、原田西遺跡(82)、猪名川床遺跡(120)、瀬川川床遺跡(148)であり、段丘崖下の沖積地に存在する下加茂遺跡(85)などとともに中期から晩期の遺跡は沖積地に多く存在している。一方、段丘上の後期～晩期の遺跡は有岡城・伊丹郷町遺跡(61)や加茂遺跡(89)で後期～晩期の遺構・遺物が発見されているが、東野第3遺跡(11)、桜ヶ丘遺跡(59)および大阪府御の池田市池田城跡下層遺跡を含めても遺跡数が限られ、遺構をともなう遺跡としては段丘上では沖積地に近い縁辺部に限られるようである。

弥生時代の遺跡のうち、前期前半では口酒井遺跡(78)があり、前期中頃以降小阪田遺跡(70)、大阪空港遺跡B地点(73)、岩屋遺跡(77)、田能遺跡(83)、下加茂遺跡(85)、北裏遺跡(92)、猪名川床遺跡(120)、古宮遺跡(147)、東武庫遺跡(156)と遺跡数が多く、田能遺跡や北裏遺跡・東武庫遺跡では中期以降も継続して存続しているが、この段階には伊丹段丘上には遺跡の出現は認められない。弥生中期には原田西遺跡が加わり、外縁付鉢の銅鐸が中村遺跡(71)から出土している。沖積地においては弥生後期に至って遺跡数が増大する。新たに北村遺跡(17)、松原遺跡(67)、大阪空港遺跡A地点(72)、西桑津遺跡(74)、森本居館跡(75)、久代遺跡(84)、四ノ坪遺跡(125)、中ノ田遺跡(129)、松ヶ内遺跡(133)、田能高田遺跡(134)、東園田遺跡(151)、深田遺跡(153)が出現し、詳細は不明であるが、下河原遺跡(69)、森本遺跡(76)、口酒井春日神社境内遺跡(79)、宮ノ北遺跡(91崖)、春日神社遺跡(121)、寺前遺跡(126)、上園橋遺跡(127)、園田競馬場遺跡(135)、椎堂遺跡(136)、大西遺跡(137)、喜撰町遺跡(140)、南口遺跡(143)、南浦遺跡(145)、瀬川川床遺跡(148)、西湖遺跡(154)、塚口山廻遺跡(158)の多くが後期以降と思われる。沖積地に存在する遺跡のうち、北村遺跡、中ノ田遺跡、宮ノ北遺跡、寺前遺跡、上園橋遺跡は段丘崖下に、松ヶ内遺跡、塚口山廻遺跡は段丘の埋没線上に位置している。

一方、伊丹段丘上の弥生時代の遺跡では加茂遺跡(89)が中期初頭に出現するが、段丘東端でかつ北側にある南花屋敷の陥没地に面した位置にあたる。中期の遺跡は段丘南西端にあたる部分に道ノ下遺跡(101)、南戸板遺跡(103)、武庫庄遺跡(105)が出現し、後期に至っても同じ地域に南城越遺跡(99)、東柿ノ木遺跡(104)、庄ノ内遺跡(107)、四方田遺跡(108)が存在し、堀池遺跡(38)、野間森本遺跡(42)を含めても段丘中央部には遺跡の広がりは認められない。また、この現象は段丘南東端における北畠遺跡(124)、前畠遺跡(128)、真淨坊遺跡(155)や、沖積地に面した段丘東端の高台遺跡第3地点(21)、高台遺跡第4地点(22)、伊丹小学校遺跡(60)および東大野遺跡(86)、六つ塚遺跡(87)、加茂西遺跡(88)や加茂遺跡も含め、同様の立地となっており、段丘東端には西野遺跡(31)が立地している。荒牧遺跡(2)は北側の低地や陥没地に面して選地しているようであり、萩野遺跡(6)についても段丘内の陥没地にあたる。

伊丹段丘上最古の古墳は、段丘西縁中央部に存在する前期の安倉高塚古墳である。段丘中央部ではそれに続く古墳は不明確であるが、段丘南東部および埋没段丘上に猪名野古墳群で総称される前方後円墳を主体とした古墳群が前期末から中期にかけて築造されている。池田山古墳(119)、伊居太古墳、御願塚古墳(55)、御園古墳(149)、南清水古墳(131)、園田大塚山古墳(130)、と統いて築かれ、食満1号墳(138)も前方後円墳と思われる。やや北に上がった段丘上には前期末の前方後円墳である女郎（土鵠）塚古墳



第1図 道路分布図

(63)およびその東側の有岡城跡・伊丹郷町遺跡下層(63)で前期末頃の埴輪円筒棺が出土している。その他に中期の鶴塚古墳(64)、中期末の埋没古墳（仮称南本町4号墳）のほか、後期前半の南本町1～3号墳(66)、黄金塚古墳(68)、螢塚古墳(123)などが存在するが、古墳の数はもっと多かったようである。段丘東縁中央部では緑ヶ丘1号墳(15)、緑ヶ丘2号墳（竹塚）(16)といった後期古墳が築造されている。段丘中央部には荒牧古墳(5)、中野古墳(28)も存在する。

一方、段丘南西部および埋没段丘上には前期末頃の前方後円墳である水堂古墳や後期前方後円墳の大井戸古墳、前方後円墳の可能性が高い友行古墳のほか、狐塚古墳(41)、獅山古墳(95)、浅堀古墳(106)、座頭塚古墳(109)が存在し、段丘中央南端部には径38mの柏木古墳(56)のほか、平塚古墳(48)、車塚古墳(115)、阪塚古墳(116)、琵琶塚古墳(117)があり、南野道路(47)では埋没古墳の周溝が検出されており、伊丹段丘南縁から南東部にかけては比較的標高の低い場所に前期末～中期の古墳が築造されている。

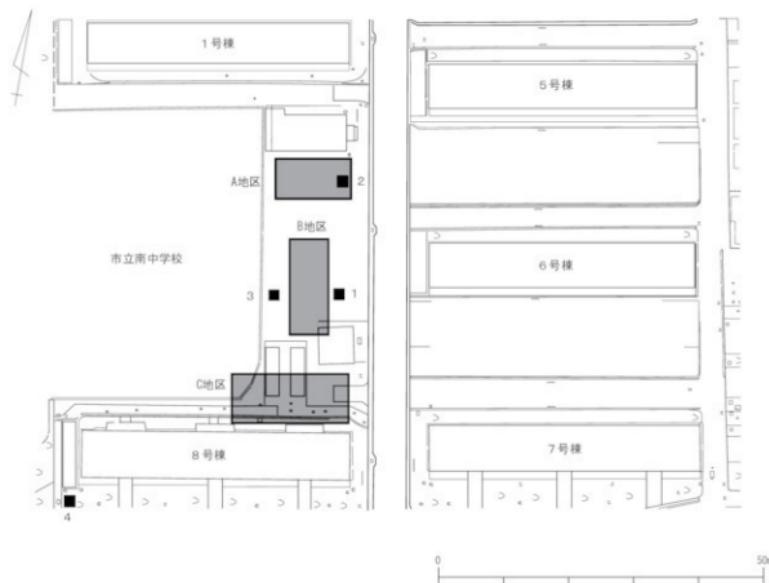
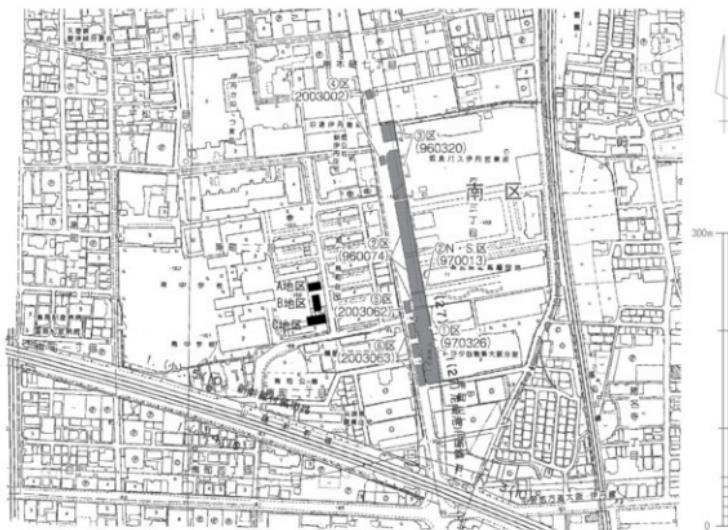
段丘上の古墳時代の集落跡は加茂遺跡や南西端の道ノ下遺跡以外には不確定なものが多く、不明であるが、沖積地の集落では中ノ田遺跡、岩屋遺跡、田能高田遺跡、東園田遺跡、深田遺跡があり、立地の点では弥生時代後期とあまり変化は無いようである。

奈良時代以降の遺跡は、段丘中央東部、段丘南東部、段丘南西部に集中し、それぞれ伊丹廃寺、猪名寺廃寺、昆陽寺が核となるようである。昆陽寺境内遺跡では奈良時代の礎石建物が検出されている。

本章は、東側に隣接する南本町遺跡の報告書（兵庫県文化財調査報告第320冊 2007年刊）を一部変更して再録した。

第1表 遺跡名

A 南町道路	32 寺本道名野神社境内道路	64 有岡城跡堀塹跡（古墳）	96 常松東浦道路	128 前畠道路
1. 荒牧畔道道路	33 昆陽寺境内道路	65 平松町道路	97 時友道路	129 中ノ田道路
2. 荒牧道路	34 山田道路	66 南本町道路	98 友行古墳	130 圓田大塚山古墳
3. 荒牧川ノ尻道路	35 寺本道路	67 松原道路	99 南城越道路	131 南清水古墳
4. 荒牧長野道路	36 昆陽黒田道路	68 黄金塚古墳	100 中嶋道路	132 稲荷道路
5. 荒牧古墳	37 山田有船道路	69 下河原道路	101 道ノ下道路	133 松ヶ内道路
6. 萩野道路	38 葵池道路	70 小阪田道路	102 南吹上道路	134 田能高田道路
7. 萩野マウンド1道路	39 野間東ノ口道路	71 中村道路（網跡）	103 南戸板道路	135 圓田競馬場道路
8. 萩野マウンド2道路	40 一木松道路（填草）	72 大阪空港道路A地点	104 東柿ノ木道路	136 椿堂道路
9. 東野道路第1地点	41 孤塚古墳	73 大阪空港道路B地点	105 武庫庄道路	137 大西道路
10. 東野道路第2地点	42 野間森本道路	74 西桑津道路	106 浅瀬古墳	138 食満1号墳
11. 東野道路第3地点	43 野間若宮道路	75 森本居船路	107 庄ノ内道路	139 食満2号墳
12. 緑ヶ丘道路	44 昆陽林田道路	76 森本道路	108 四方田道路	140 齊樋町道路
13. 伊丹廃寺跡	45 昆陽石巖出土地点	77 岩屋道路	109 席頭塚古墳	141 篠田道路
14. 猿々山城跡	46 南野出口道路	78 口酒井道路	110 東富松道路A	142 西ノ口道路
15. 緑ヶ丘1号墳	47 南野道路	79 口酒井春日神社境内道路	111 東富松道路B	143 南口道路
16. 緑ヶ丘2号墳（竹塚）	48 平塚古墳	80 口酒井櫛名川河原道路	112 富松城跡	144 宮ノ前道路
17. 北村道路	49 安安寺道路	81 口酒井漢川河原道路	113 赤田道路	145 南浦道路
18. 北園道路	50 了福寺石造塔婆	82 原田西道路	114 武庫中学校道路	146 東口道路
19. 高台道路第1地点	51 御願塚道路第1地点	83 田能道路	115 幸塚古墳	147 古宮道路
20. 高台道路第2地点	52 御願塚道路第2地点	84 久代道路	116 阪塚古墳	148 漢川川床道路
21. 高台道路第3地点	53 御願塚道路第3地点	85 下加茂道路	117 猪邑塚古墳	149 御園古墳
22. 高台道路第4地点	54 御願塚道路第4地点	86 大東野道路	118 塚口城跡	150 圓院の石柱
23. 大鹿道路	55 御願塚古墳	87 六つ塚道路	119 池田山古墳	151 東圓田道路
24. 大鹿城ノ中道路	56 柏木古墳	88 加茂西道路	120 猪名川川床道路	152 神楽田道路
25. 瑞ヶ池畔塚	57 千僧道路	89 加茂道路	121 春日神社道路	153 深田道路
26. 大鹿玉田道路	58 大鹿お塚	90 常根副澤出土地	122 猪名寺廃寺跡	154 西浦道路
27. 昆陽池北東畔塚	59 桜ヶ丘道路	91 宮ノ北道路	123 番塚古墳	155 真淨寺道路
28. 中野古墳	60 伊丹小学校道路	92 北裏道路	124 北畠道路	156 東武庫道路
29. 西野マウンド1道路	61 有岡城跡・伊丹郷町道路	93 三良田道路	125 四ノ坪道路	157 長ノ手道路
30. 西野マウンド2道路	62 有岡城跡岸ノ野跡	94 上カシテ道路	126 寺前道路	158 塚口山廻道路
31. 西野道路	63 有岡城跡女郎塚古墳（古墳）	95 猫山古墳	127 上園慎道路	



第2図 調査地点位置図 (■はトレンチ)

第2章 調査の成果

第1節 調査に至る経緯

事業予定地が南本町遺跡（遺跡番号 080066）に隣接することから、平成20年度に兵庫県住宅供給公社から依頼を受け、確認調査を行った（平成20年8月19日付 兵住公第324号）。対象地に4ヶ所のトレンチを設定し、掘削したところトレンチ1・2より中世と考えられる遺構・遺物を検出した。

確認調査の結果を受け、平成21年6月22日付 兵住公第167号によって平成21年9月1日～平成21年10月14日にかけて、本発掘調査を実施した。調査面積は305m²であった。

本発掘調査は調査区をA地区、B地区、C地区に分割し、実施した。調査は現地表及び遺物包含層直上までの堆積土を機械力によって掘削・除去し、以下遺構面まで人力掘削を行い、遺構精査を実施した。また、掘削残土については、すべて横置きとし、調査終了後、埋め戻した。

また、9月30日・10月1日の2日間に渡り、伊丹市立南中学校全校生徒を対象として説明会を実施した。

出土遺物の整理については、平成23年度・24年度に実施した。

平成23年度は兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 調査第2課 岸本一宏・西口圭介、整理保存課山本 譲・深江英憲のもと、水洗い～接合補強作業を行った。

平成24年度は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 調査第2課 岸本一宏・西口圭介、整理保存課 深江英憲のもと、実測～レイアウト更に報告書刊行作業及び木製品保存処理、埴輪の胎土分析鑑定を行った。

第2節 調査区の状況

伊丹南中学校が当地に移転する以前には、花川鉄工所が所在しており、また工場の用水に使用したと考えられる方形の池が存在していた。A地区・C地区の西端部分において池の東肩が検出されている。

各調査地点では花川鉄工所に伴うコークスが厚く堆積し、部分的にコークス・コンクリートなどを埋め込むために大きく擾乱坑が開けられている。また、池の護岸石積みなどによる擾乱も存在する。

コークスの下には旧耕作土・近代～近世耕作土・洪沢砂・暗灰～褐色土（古代～中世の水田土壤）の順に堆積があり、黄白色土（地山）となる。その厚みは旧耕作土上～地山面まで、約40cmである。

今回の調査では、各調査区から古代～中世の水田土壤に伴う畦畔、地山面上から土壤群を検出した。

1. A地区

東西長120m、南北幅5.5～6.0m、約71m²の調査区である。調査区西1/3は搅乱され、厚くコークスが堆積している。用水池の一部が埋め立てられたものと考えられる。土壌4基、畦畔状遺構などを確認した。

（1）層序（図版2）

コークス層の下に旧耕土2層があり、その下に3層～7層の土壤層（耕作土層）が存在する。SX-A01～A04は6層あるいは7層によって被覆されており、7層の東端は大きく隆起しており、平面では大畦畔の痕跡として変色部が検出されている。遺構面は2面存在することが、土層堆積より読み取れる。4層・5層もまた畦畔の存在が断面から読み取れ、下層の畦畔とはほぼ同じ場所に構築している。

(2) 遺構

土壤3基・落ち込み1基・溝1条・畦畔状遺構を検出している。

土壤・落ち込み

土壤群SX-A01～A03は調査区南東隅に集中して検出しており、C地区において多数検出されているものと同様に粘土探掘壙と考えられる。

SX-A01 (図版2 写真図版1)

調査区南東隅より検出された。SX-A02と切り合い新しい。不整な俵形を呈しており、規模は東西1.00m以上、南北約1.04m、深さ約35cmを測る。土壤断面はU字形を呈し底面は丸い。埋土は掘削土を投入しており、人為的に埋め戻しているが、4層より上については土壤化しており自然堆積によって埋没したと考えられる。

SX-A02 (図版2 写真図版1)

調査区南東隅より検出された。SX-A01と切り合い先行する。不整な卵形を呈しており、規模は東西0.90m、南北約0.76m、深さ約37cmを測る。土壤断面はU字形を呈し底面は凹凸がある。埋土は概ね土壤化しており自然堆積によって埋没したと考えられる。

SX-A03 (図版2 写真図版1)

調査区南東隅より検出された。SX-A01・SX-A02の北側に位置する。不整な長方形を呈しており、規模は長辺0.83m、南北約0.60m、深さ約26cmを測る。土壤断面は深いU字形を呈しているが、上半部では大きく開いている。平面形からは凹凸・段が見られることから数度の掘削が行われた可能性がある。埋土は概ね土壤化しており自然堆積によって埋没したと考えられる。

SX-A04 (図版2 写真図版1)

調査区北西隅より検出された。全長3m以上、深さ25cm以上を測る方形落ち込みである。搅乱及び調査区外に延びることから規模の詳細は不明である。掘削土（地山土）を投入しており、人為的に埋め戻していることから粘土探掘壙と考えられる。

畦畔状遺構 (図版2 写真図版1)

方位を北北西にとる、調査区を南北に横断する幅約1.5mの細長い溝状の変色である。両側に浅い溝状の変色が走り、内側には長楕円形の変色が並列している。これら変色は何れも更に小さな幅20cm程度の不整形な褐色シルトのブロックから構成されている。一部に足跡様のものを含むがいわゆる波板状凹凸面と認識されるもので、断面では隆起が確認できることから大型の畦畔と判断される。本遺構は上層に幅20cm程度のL字形の溝が重複して存在するが、関係は不明である。

2. B地区

南北長15.0m、東西幅6.0m、調査面積約90m²の調査区である。調査区の大半が擾乱されており、厚くコーケス層が堆積している。遺構面は調査区の東辺及び南辺に沿って部分的に残存していた。土壤3基、水田遺構、溝などを確認した。

(1) 層序 (図版3)

コーケス層の下に近現代の旧耕土2層・3層があり、その下にある4・5層は洪水に起因する堆積層である。7層・8層は土壤層（耕作土層）である。小畦畔が存在しており、両層で、ほぼ同じ場所に構築している箇所もある。SX-B01～B03は8層によって被覆されており、水田遺構より古い。

(2) 遺構

土壙

土壙3基はA・C地区において多数検出されているものと同様に、粘土探掘壙と考えられるものである。水田遺構・土壙の下層から検出している。

SX-B01 (図版3 写真図版1)

調査区北東隅より検出された。調査区外に大半があり、規模は南北2.00m以上、東西約1.10m以上、深さ約50cmを測る。土壙底面は丸い。腐植土を含んだ掘削土によって、人为的に埋め戻している。

SX-B02 (図版3 写真図版1)

調査区中央東縁において検出された。SD-B03・B04によって切られている。大半が調査区外にあり形状・規模は不明である。水田土壙6・7層によって被覆される。検出時に弥生土器5・須恵器高坏8・須恵器短頭壺9・瓦器碗14が出土している。

SX-B03 (図版3 写真図版1)

調査区南東隅より検出された不定形の土壙である。規模は長軸2.50m、短軸約1.80m、深さ約44cmを測る。土壙底面は丸い。水田土壙6・7層によって被覆される。2基の土壙が重複している可能性が考えられる。

溝

SD-B01・SD-B02・SD-B03 (図版3 写真図版1)

SD-B01・SD-B02は調査区の東端を南北に走る溝である。擾乱等により規模・形状は明確ではないが、幅0.8m程度の1本の溝であった可能性が高い。

SD-B03・SD-B04は、削平され殆ど残存していないが、SD-B01・SD-B02と切り合う、あるいは合流する幅0.6m程度の溝と考えられるが、詳細は不明である。

水田遺構 (図版3 写真図版1)

調査区の南東隅から8層に伴う水田遺構を検出した。畦畔は幅30cm・高さ20cm前後の規模を持ち、東西・南北方向に走るが、明かな方形区画を造り出していたか否かは明確ではない。水田区画の規模は南北長3m程度、東西幅についても1.5m前後の細長い形状が想定される。

3. C 地区

東西長18.0m、南北幅8.0m、約144m²の調査区である。調査区北西端は擾乱され、厚くコーケスが堆積している。旧用水池の南東隅一部が埋め立てられたものと考えられる。

粘土探掘壙と考えられる土壙22基、水田遺構、畠作の鶴溝などを確認した。

(1) 層序 (図版4・5)

コーケス層の下に近現代の旧耕土2層・3層があり、その下にある4・5層は洪水に起因する堆積層である。5層からは瓦器片が出土している。6層は水田土壙層（耕作土層）である。小畦畔が存在している。粘土探掘壙は6層によって被覆されており、明らかに水田遺構より古い。

(2) 遺構

粘土探掘壙

SX-C03 (図版5、写真図版3)

ほぼ中央部に位置する、長径1.35m、短径1.00mの平面梢円形の土壙で、南東側のSX-C04と上面で

一部重複している。検出面からの深さは47cmで、側面は垂直に近く、底面は水平・平坦である。横断面の埋土は上位に灰色系、中位に黄褐色系、下位は明褐色系の極細砂～シルトとなっている。

SX-C04 (図版5、写真図版2)

中央東寄りに位置する、長径1.35m、短径1.05mの平面不整楕円形の土壤で、北西側のSX-C03と上面で一部重複している。検出面からの深さは38cmで、側面は傾斜し、底面は楕円形で水平・平坦である。埋土の上部は自然堆積であるが、それ以外は人為的に埋められたような状況を呈している。

SX-C05 (図版6、写真図版3)

中央南東寄りに位置する。長径1.60m、短径1.15mで、二つの土壤の重複にもみえるが、埋土土層断面では單一土壤のようである。土壤側面は垂直に近く、底面はやや傾斜している。深さ40cm。

SX-C06 (図版6、写真図版2)

中央南東端に位置する。長径1.35m、短径1.10mで、検出面からの深さは42cmを測る。底面は平坦・水平である。側面の一部はオーバーハングしている。下層埋土は紗質土となっている。

SX-C07 (図版10、写真図版2)

中央南東端に位置する不整長楕円形の土壤で、長径1.64m、短径84cmを測り、複数の土壤が重複したような平面形である。検出面からの深さは45cmを測る。

SX-C08 (図版10、写真図版2)

南東端に位置し、南部は調査区外に続く。東西1.16m程度、南北0.84m以上で、検出面からの深さは54cmを測る。底面はほぼ水平で平坦である。

SX-C09 (図版6、写真図版2)

中央部西寄りに位置する。長径1.45m、短径1.18mで、検出面からの深さは30cm。側面は傾斜をもち、底面はほぼ水平で平坦となっている。埋土から円筒埴輪片(18)が出土している。

SX-C10 (図版7、写真図版2)

中央西部に位置する平面楕円形の土壤で、長径0.98m、短径0.6mを測る。検出面からの深さは21cmと浅く、底面は南東側に少し傾斜している。埋土下層には粗砂を含んでいる。

SX-C11 (図版7、写真図版2)

中央部に位置する。長径1.26m、短径0.78mの楕円形を呈し、検出面からの深さは30cmである。埋土上層以外は人為的に埋められたような状況を示す。側面は少し傾斜し、底面には少し丸みがある。

SX-C12 (図版7、写真図版2)

中央北端に位置する。長径1.73m、短径1.34mの平面楕円形で、検出面からの深さは40cmを測る。側面は二段に落ち込み、下層は人為的に埋められた様相を呈している。須恵器坏身(19)が出土した。

SX-C13 (図版8、写真図版2)

中央部南端に位置する。検出面では長径1.94m、短径1.50mの平面楕円形を呈し、北東側のSX-C14と一部重複しており本土壤が新しい。底面は西側にやや傾斜し、底の一部には深さ約10cmの楕円形部分がある。検出面からの最大深は72cmである。底に密着して土師器壺片(20・21)が出土している。

SX-C14 (図版8、写真図版2)

中央部南端付近にあり、長径1.55m、短径1.16mの平面楕円形を呈し、南西側のSX-C13と一部重複している。底面は水平で、検出面からの深さは48cmである。埋土から土師器壺口縁細片(22)が出土している。

SX-C15 (図版4 写真図版2)

南東部に位置し、北側約半分がSX-C16と重複している。平面橢円形と思われ、長径残存長は1.24m、短径0.67mである。底は丸く最大深48cmを測る。埋土から土師器甕小片(23)が出土している。

SX-C16 (図版4 写真図版2)

C地区南東部に位置する、平面橢円形の土壤で、長径65cm、短径45cmを測る。南側はSX-C15と重複しているが前後関係は不明である。底は水平で深さは64cm。埋土から土師器甕把手(24)が出土した。

SX-C17 (図版9 写真図版2)

中央南西端に位置する、最大径50cmの平面円形に近い土壤で、検出面からの深さは25cmと浅い。埋土から土師器甕小片(17)が出土している。

SX-C18 (図版4 写真図版2)

C地区南西部に位置する、溝状に長い土壤で、最大長1.70m、最大幅66cmを測る。検出面からの最大深は19cmと浅い。底面は船底状に近い。

SX-C19 (図版9 写真図版2)

C地区的南東隅に位置する、長径1.70m以上、短径1.32mの平面橢円形に近い土壤で、検出面からの最大深は44cmである。東端は調査区東端あたりと思われる。底面は西側がやや高く、東側に少し傾斜している。埋土は第1層を除き人為的に埋め戻されたように看取できる。

SX-C20 (図版9 写真図版2)

C地区南東隅に位置し、SX-C19を避けるように東側が窪む平面不整長橢円形を呈する。北端は擾乱壙により破壊されている。南北最大径は2.13m以上、最大幅1.30mを測るが、一部で遺構が重複していることにより掘り残したため、推定幅は1.5m程度となるようである。検出面からの最大深は43cmで、底面は西側および北側にやや傾斜している。埋土は人為的に埋められたような状況を呈している。

SX-C21 (図版10 写真図版3)

C地区中央北東部に位置する、長径2.06m、短径1.42mの平面橢円形に近い土壤である。土壤底部南寄りに長径88cmの円形を呈する、北側底面から5cm程度深い部分があり、その部分の最大深は検出面から45cmを測る。東側の壁に沿って、底から約10cm高い位置で土師器小形甕の破片(25)が出土した。

SX-C22 (図版10 写真図版2)

C地区的中央東部で検出した。橢円形土壤が南北に二つ重なったような平面形状を呈している。南北方向の全長は2.50m、北側の短径は1.30m、南側は短径1.20mを測る。底面は平坦・水平で、南側での検出面からの深さは南側で34cm、北側で23cmと異なるが、北側の検出面が南側に較べて15cm程度低くなっているためである。底面北端には底面よりも5cm程度深い長径70cmの橢円形部分がある。

水田遺構(水田畦畔)と畠作痕跡 (図版4 写真図版2)

調査区の東半より、方位を北北西にとる幅約30cm・高さ約20cmの小畦畔、小畦畔によって区画された幅1.5m・長さ4m以上の短冊形の細長い区画検出した。また、一部で、田起こしの痕跡と考えられる凹凸が認められた。B地区の水田遺構と同様に東側へ下がる谷地形に沿って造られた小区画の水田遺構と考えられる。区画・畦畔に伴う層序は6層であり、A地区・B地区における水田土壤と対応する。

畠作痕跡は南北方向に並列する幅20cm前後の小溝群で、現在の周辺の地割と並行する溝である。これらは確認調査においても検出されており、第3層に伴う畠作の犁跡と考えられる。SD-C01は方位をやや違えており、下層の水田に伴う可能性が残る。

第3節 出土遺物

1. A地区出土遺物

(1) 土器・埴輪・瓦 (図版11、写真図版4)

1は円筒埴輪片である。突帯部分の小片で、包含層出土である。須恵質で外面は橙色、内面は灰黄褐色であるが、断面は灰色を呈する。突帯径は32.0cmを測る。外面の一部にタテハケが残る。

2は平瓦片である。

3は須恵器坏蓋である。端部は折り曲げやや肥厚する。天井部は平坦である。

4は土師器羽釜口縁部片である。端部上面に平坦面をもつ。鈎は欠損するが、貼り付け痕が残る。

2. B地区出土遺物

(1) 土器類・瓦 (図版11、写真図版5)

5は底部片である。底径6.0cm、残存高4.0cm、SX-B02検出時に出土した。弥生後期と思われる。

6は須恵器坏蓋の口縁部で、口径11.0cmを測る。B地区南端の包含層出土で、TK217型式期である。

7は須恵器坏身片で、口径は12.2cmである。MT85型式併行期と思われる。南端包含層出土である。

8は須恵器高杯で、脚部には方向数不明の長方形透孔がある。SX-B02検出時に出土した。

9は須恵器短頸壺片で、体部最大径は上位にあり、5.4cm。TK47型式期で、SX-B02検出時に出土。

10は須恵器捏鉢口縁部の小片で、鶴跡埋土から出土した。端部は上方に少し引きのぼしている。

11は土師器の壺または堀の把手で、古墳時代のものと思われる。B地区南東隅の造構面から出土した。

12は土師器鍋口縁部片である。端部は内側に肥厚し丸く収める。SX-B01より出土した。

13は白磁皿もしくは碗の底部である。削り出しによって突出しており、外面はヘラ切り離しを施す。近世の製品である。SX-B01より出土した。

14は瓦器椀片である。内外面ともに横方向のヘラ磨きを施し、体部外面の下半には一部指押さえ痕が残る。SX-B02検出時に出土した。

15は瓦器椀底部である。かまぼこ形の低い貼り付け高台をもつ。調査区南端より出土した。

16は平瓦片である。

(2) 木製品 (図版11、写真図版7)

W1は札状の板材の一端の片面を削り込んだ楔形の木製品である。他端は折損している。

3. C地区出土遺物

(1) 土器類・瓦 (図版12、写真図版4・6・7)

17はSX-C17出土の土師器壺口縁部小片である。端部を欠失するが、古墳時代後期初頭と思われる。

18は円筒埴輪片である。突帯断面は台形を呈し、棱もやや鋭い。須恵質であるが橙色を呈する。体部外面は細筋の斜めタテハケで、ヨコハケは加えていない。川西編年第V期で一瀬細分古相を中心とした時期と思われ、須恵器ではMT15型式期を中心とする。SX-C09出土である。

19は口縁部を欠失する須恵器坏身で、体部の形状からT K47型式期と思われる。SX-C12出土。

20はSX-C13出土の土師器壺片で、口径23.6cmを測る。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。内外面

とも刷毛調整である。古墳時代中期末～後期前半と考えられる。

21は壺体部の破片で、SX-C13内から出土した。体部最大径は30.0cmで、横幅5.8cm、厚さ2.3cmの把手が剥離した痕跡を残す。器表磨滅が著しい。

22は土師器壺口縁部の細片で、SX-C14から出土したものである。17と同時期であろう。

23も土師器壺口縁部小片で、20と同時期と思われる。SX-C15出土である。

24は土師器壺の把手部分で、平面は半月状を呈する。SX-C16から出土したものである。

25は土師器のやや小形の壺で、口径は13.5cm、残存高は10.0cmを測る。内外面ともハケ調整であるが、体部内面にはユビオサエ痕が多く残る。SX-C21出土で、古墳時代後期前半頃と想定している。

26は須恵器坏身の口縁部である。坏身あるいは高坏と思われる。口縁端部には凹面をもち棗はや鋸い。口径9.9cmで、TK47型式期～MT15型式期と思われる。C区の地山上の茶灰色土出土である。

27は須恵器の壺と思われる口縁部で、外面には12条の波状文を施す。南東部の包含層から出土した。

28は長頭壺または平瓶で、口縁部を欠失し、体部の棗は鋸い。奈良時代頃であろう。包含層出土。

29は土師器小皿である。手捏ねによる整形を行い、口縁部はヨコナデによって直立する。底部には指オサエ痕が残る。SX-C04より出土した。

30は瓦器椀口縁部片で、外面にヨコナデ、内面に横方向の磨きを施す。SX-C01上より出土した。

31は瓦器椀である。口縁部はヨコナデ、外面体部上半には横方向のヘラ磨き、下半は指オサエ整形を施す。SX-C06上より出土した。

32～41は包含層より出土した。32は須恵器坏Bの底部である。先端の丸い貼り付け高台を持つ。南東部包含層から出土した。

33は須恵器壺類の下半である。体部外面は粗いヘラ削り、底部はヘラ切りである。

34は土師器椀である。口縁部は緩やかに内湾しており、器壁は薄い。南東部包含層から出土した。

35・36は京都系土師器皿である。35は口縁部が屈曲し、外方に伸び口縁端部を摘みあげる。36は外方に開き端部は肥厚する。体部下半に指オサエ痕が顕著である。何れも包含層より出土した。

37は透明釉を施した陶器の香炉または火鉢の口縁部である。外面に雷文帯を施す。

38は備前焼擂鉢体部である。6本以上の擂り目を持つ。

39は白磁端反り碗片である。

40は丸瓦片である。

41はガラス製品である。6角形に削り出したガラス管の一端に小さな液溜まりを造り出している。戦前の温度計もしくは筆記用具の軸と考えられる。

(2) 鉄滓・石匙 (図版12、写真図版4・6)

M1は包含層出土の鉄滓である。平面橢円形を呈し、長径6.1cm、短径4.2cm、厚さ2.4cmである。片面が半球形に近いことから、楕円形鉄滓と思われる。重さは986gである。

S1はSX-C06より出土した、横型で扇形を呈する石匙である。厚みのある剝片を素材としており、裏面中央には広くその主要剝離面をとどめている。刃部の二次加工は、すべて裏面（主要剝離面）側から施されており、直線的な刃部を形成している。刃部角は37°前後を測る。つまみ部分およびその周辺の二次加工は表裏両面から施されているが、表面側の剝離痕は、いずれも裏面側の剝離痕を切っている。風化は進行しているが、棱線の摩耗は認められず、刃部もきわめて鋭利な状態を保っている。肉眼観察からは、二上山産のサスカイトと思われる。

第3章　まとめ

今回の調査では、土壙群と水田跡が検出された。

土壙群からは円筒埴輪片・土師器壺の比較的大きな破片が出土している。土壙は人為的に投入された地山掘削土によって埋め戻されている。群集していることを考慮するならば、土器焼成に伴う粘土採掘場である可能性が高い。

出土遺物の時期は古墳時代中期末（5世紀後半）前後と考えられ、周辺の古墳において使用された円筒埴輪などの製作に使用された可能性も考えられる。

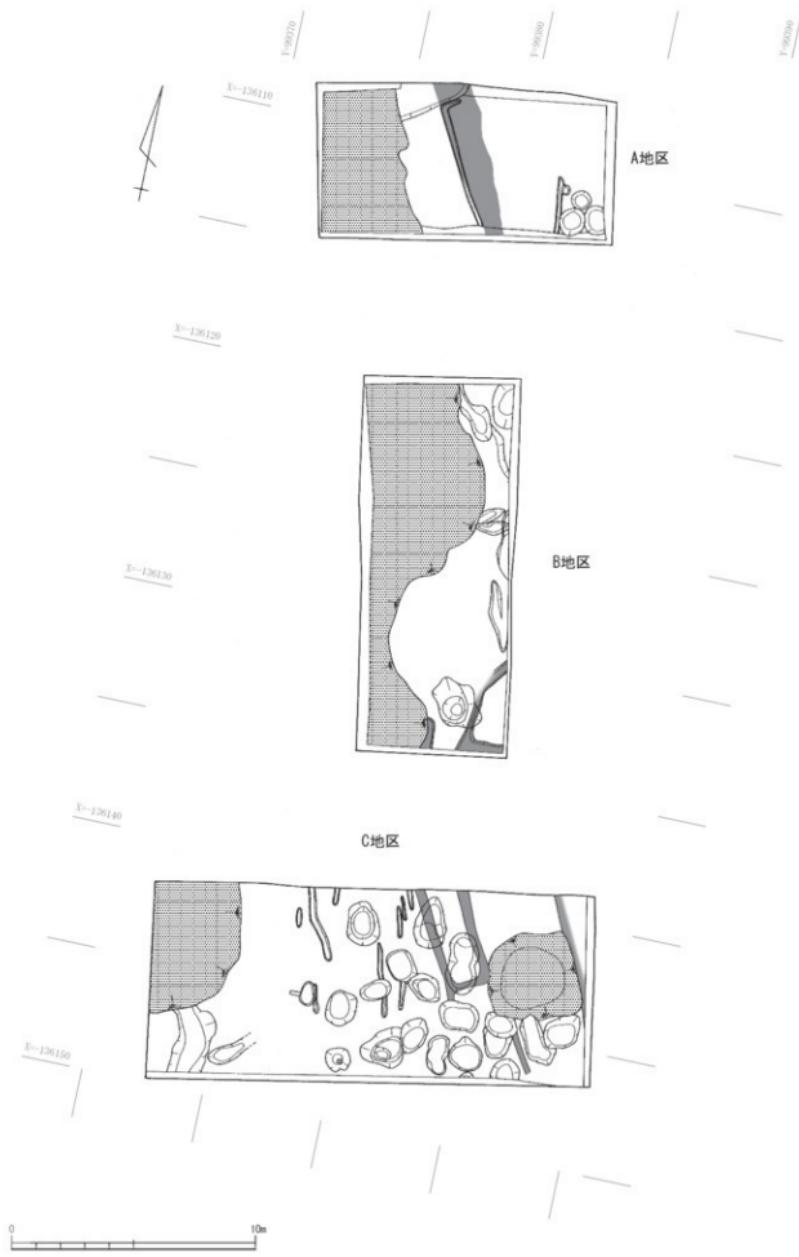
上記の推定を確かめるべく、写真図版（4中央）に示した埴輪片4点とC地区粘土採掘場S X - C15から出土した土師器壺口縁部片の胎土分析をおこなった。その結果、5点ともほぼ共通した特徴をもつことや、C地区出土の埴輪片2点と土師器壺というC地区出土分3点が砂分全体の粒径組成において細粒砂をモードとする点で一致することが判明した。

今回は、粘土採掘場の粘土そのものの胎土分析はできなかったが、土壙内出土壺と埴輪片が細粒砂モードの点で一致したことは、ここで採掘された粘土を使用して製作されたことを想定するうえで興味深い結果となった。また、A地区やB地区出土埴輪と、C地区出土埴輪・壺では砂分全体の粒径組成において若干の差があったことも付け加えておきたい。

水田跡は、各地区において畦畔が検出されている。いずれも東西短辺が1.2m～1.5mと狭く、南北方向に長い短冊型の水田と考えられる。検出面の標高から推して、本調査地点の東側を中心に現地表には現れない小規模な谷が入っている可能性が高く、凹地を水田として開発していた可能性が考えられる。畦畔は谷地形に沿って作られ、その時期は、上面の洪水砂に瓦器腕片が含まれることから、古代末から中世の可能性が考えられる。

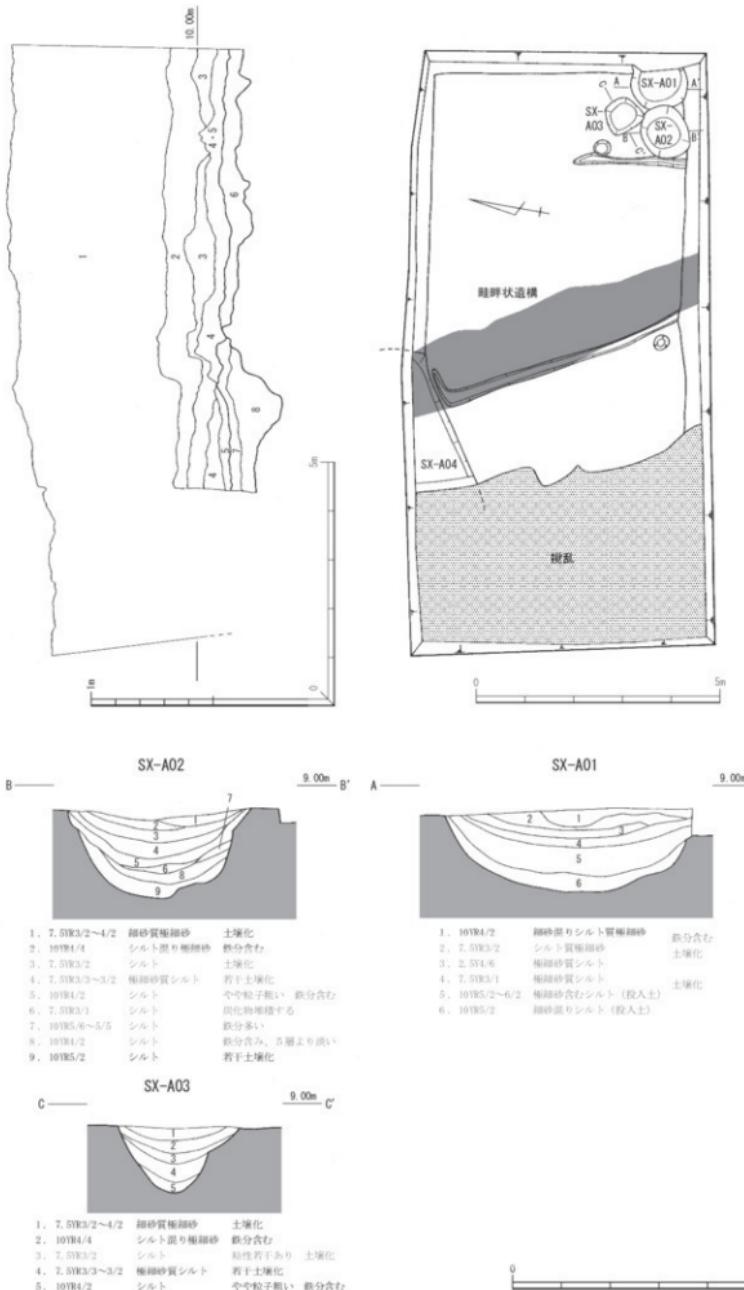
上層の歴跡は近世の畑作に伴うもので、現地表に残る地割りと同じ向き（南北方向）に耕作が行われている点は、猪名野（伊丹台地）の開発を考える上で興味深い。

出土遺物にはサスカイト製の石匙がある。周辺に繩紋時代の遺跡が存在する可能性が高い。

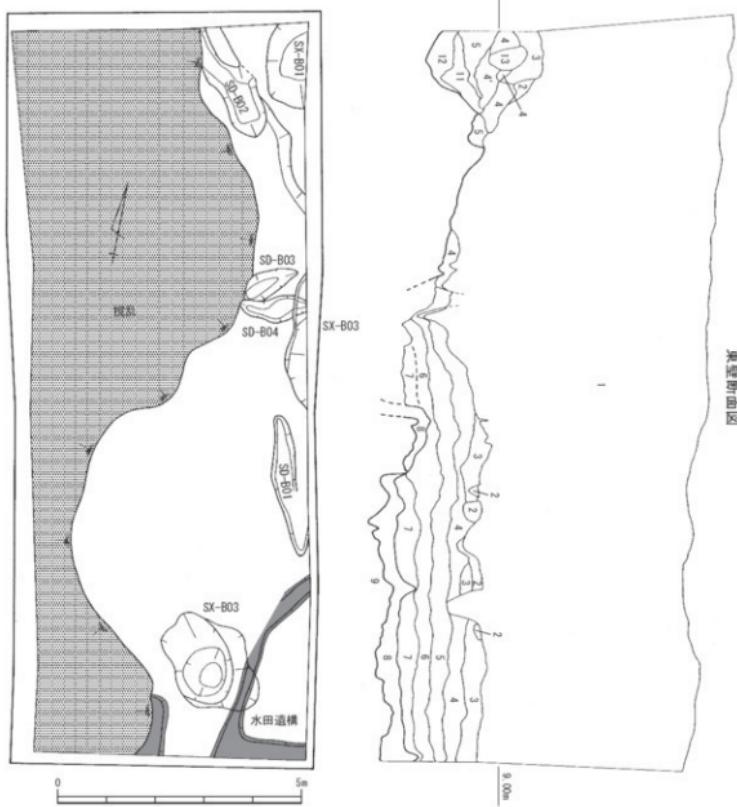


A · B · C 地区平面图

図版2



A地区平面図・断面図・粘土採掘壙断面図

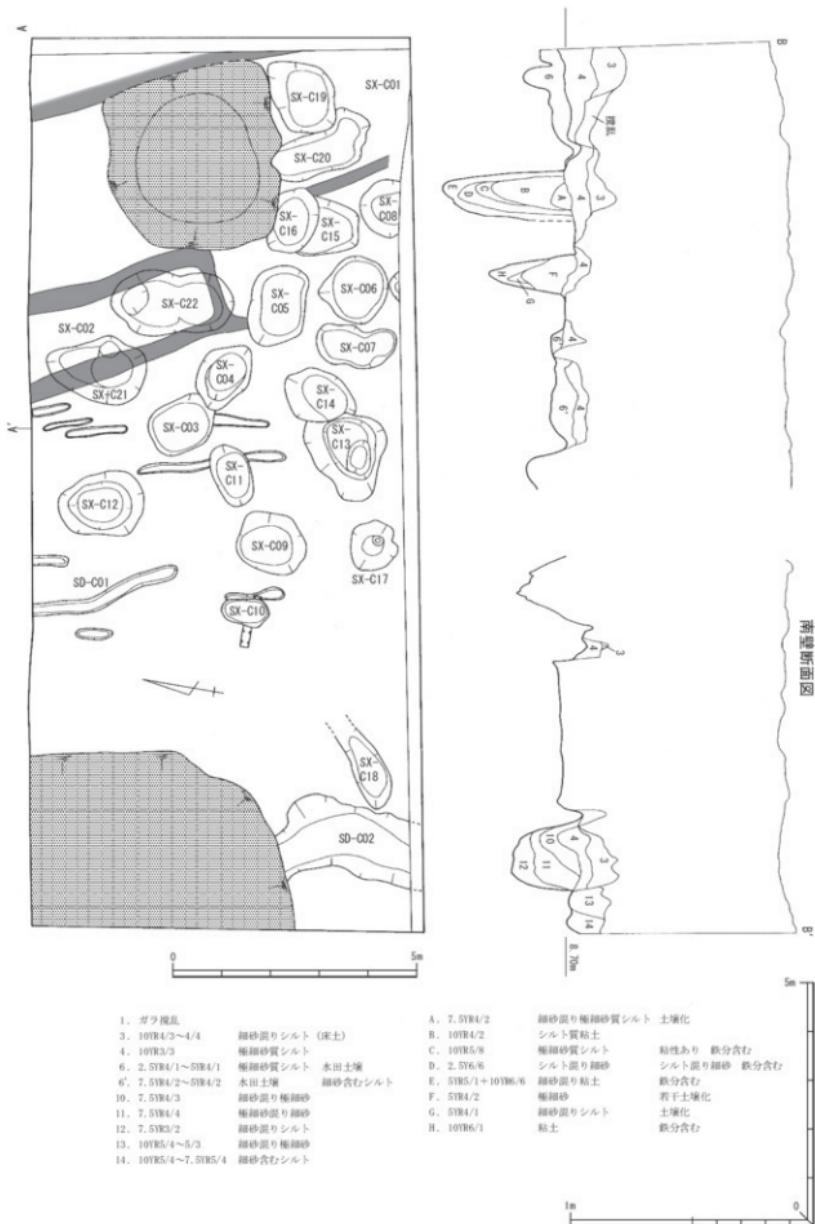


南壁断面図

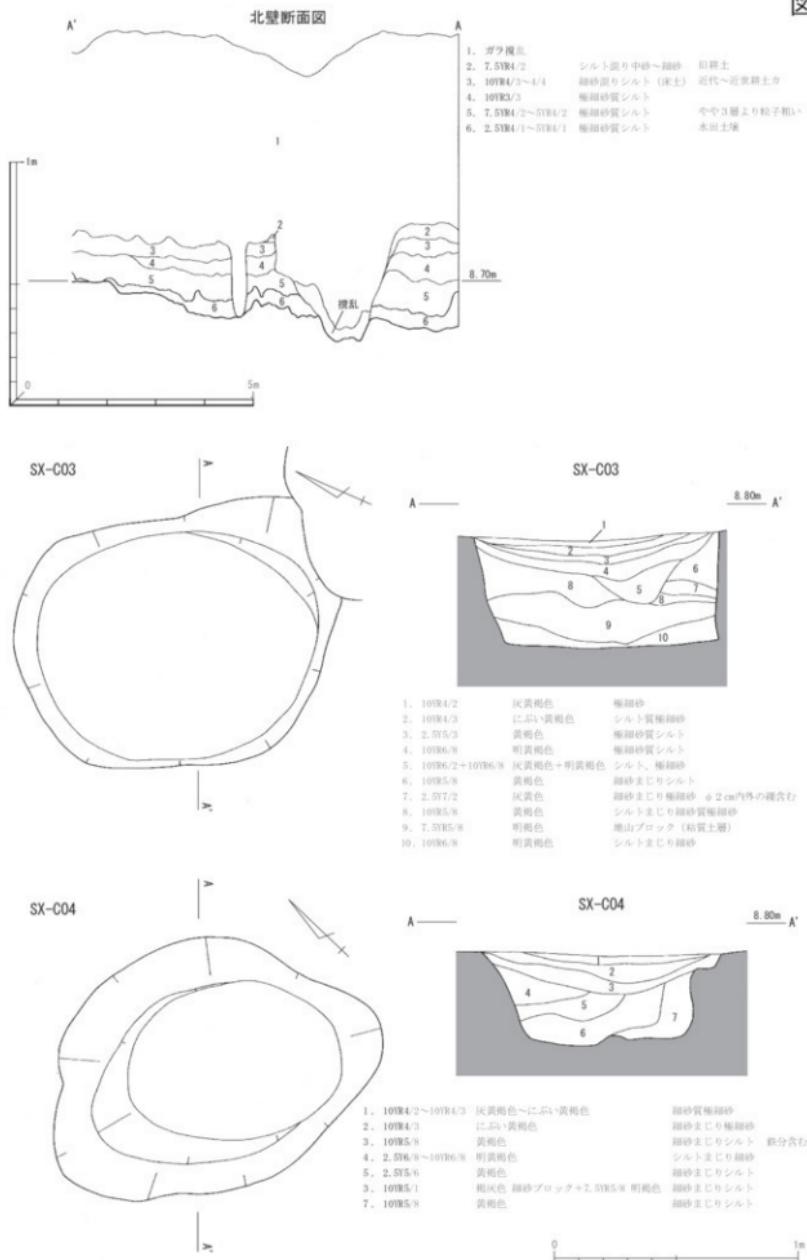


B地区平面図・断面図

図版4

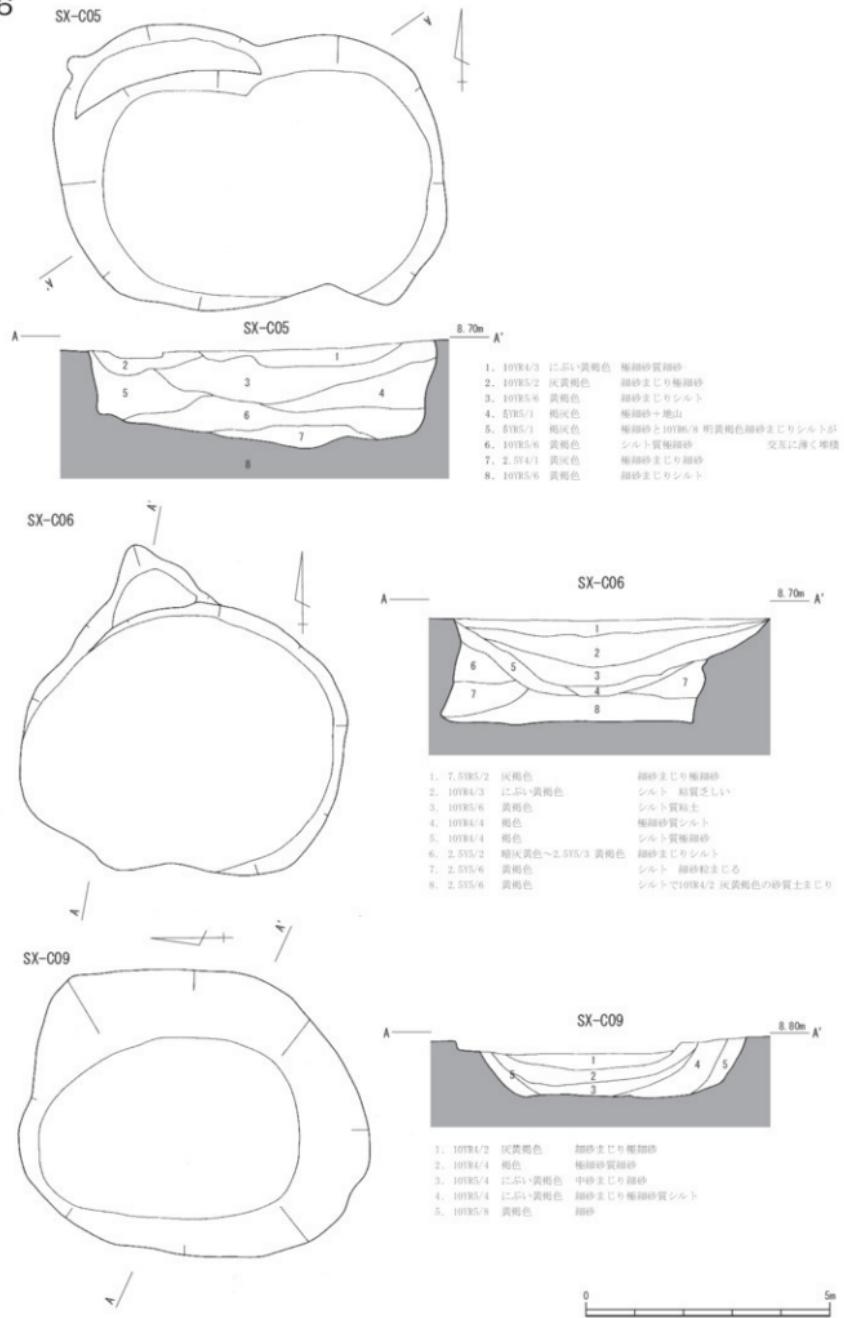


図版5



C 地区北壁断面図・粘土探掘場 I

図版6



C地区粘土採掘場II

SX-C10



SX-C10

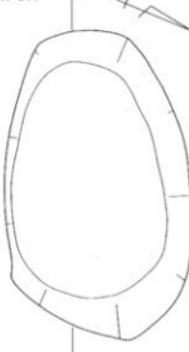
8.80m

A'



1. 107R4/2 灰黄褐色 シルト質細粒砂
2. 107R4/4 棕色 極細砂質細砂
3. 107R5/6 黄褐色 細砂で粗砂～極粗砂含む

SX-C11



SX-C11

8.80m

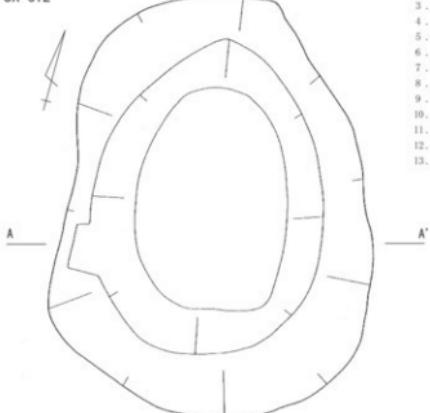
A'

A



- | | | | |
|-----|---------|-------------------|--------------|
| 1. | 107R5/6 | 黄褐色 | 細砂 |
| 2. | 2.5T5/3 | 黄褐色 | 細砂 |
| 3. | 2.5T5/3 | 黄褐色 | 細砂まじり極細砂 |
| 4. | 2.5T6/4 | にじい黄色～2.5T5/4 黄褐色 | 細砂まじり極細砂 |
| 5. | 2.5T4/3 | オリーブ褐色 | 細砂まじり極細砂 |
| 6. | 107R5/6 | 黄褐色 | シルト、細砂まじり極細砂 |
| 7. | 107R5/3 | にじい黄色 | 細砂まじり極細砂 |
| 8. | 2.5T5/3 | 黄褐色～2.5T5/2 粘灰褐色 | 細砂 |
| 9. | 107R5/2 | 灰黃褐色 | シルトまじり極細砂 |
| 10. | 107R4/3 | にじい黄褐色 | 極細砂質細粒砂 |
| 11. | 107R5/2 | 灰黃褐色 | シルト質細砂 |
| 12. | 7.5T4/8 | 明褐色 | 細砂まじり粘土 墓山 |
| | 107R6/8 | 明黄褐色 | 細砂まじりシルト 墓山 |

SX-C12



SX-C12

8.80m

A'

A



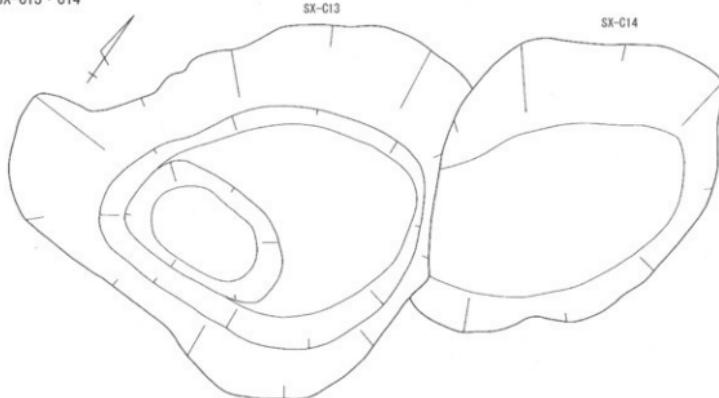
- | | | | |
|----|---------|-------------------|-----------------------------|
| 1. | 107R5/6 | 黄褐色 | 細砂 肥分含む |
| 2. | 7.5T2/3 | 褐暗褐色 | 極細砂 有機質含む (土塚層) |
| 3. | 107R5/4 | にじい黄褐色 | シルト、細粒砂まじり極粗粒砂 肥分含む 細砂～細粒含む |
| 4. | 107R5/8 | 黄褐色～2.5T5/6 黄褐色 | 極細砂質シルト 肥分含む |
| 5. | 2.5T5/2 | 褐暗褐色 | 細砂まじりシルト 肥分含む |
| 6. | 107R6/8 | 明黄褐色～2.5T6/8 明黄褐色 | 細砂まじり極細砂質シルト |
| 7. | 2.5T5/6 | 黄褐色 | シルト |
| 8. | 7.5T3/8 | 明褐色 | 細砂まじり粘土 墓山 |
| 9. | 107R6/8 | 明黄褐色 | 細砂まじりシルト 墓山 |



C 地区粘土探掘場Ⅲ

図版8

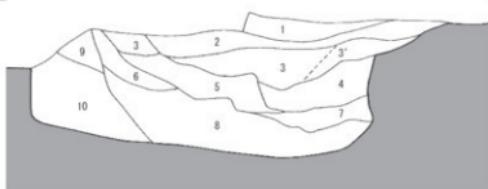
SX-C13・C14



SX-C13(1~8)・C14(9・10)

E ——

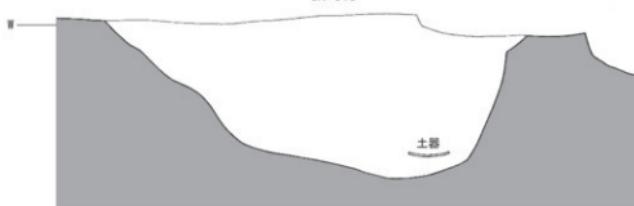
8.00m W



- | | | |
|--------------|---------------------------|--------------------------|
| 1. 10YR5/4 | にぶ・黄褐色 | 極細砂 鉄分含む |
| 2. 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | 細砂まじり極細砂 (褐色土壤層) |
| 3. 2.5YR5/2 | 灰赤色 | シルト |
| 3'. 2.5YR5/2 | 灰赤色 | 極細砂 |
| 4. 10YR6/8 | 明黄褐色 | シルト質粘土 |
| 5. 10YR5/8 | 黄褐色 | 粘土 粘分多く含む |
| 6. 10YR5/3 | にぶ・黄褐色～2.5Y5/3 黄褐色 | 極細砂質粗砂 |
| 7. 2.5Y6/3 | にぶ・黄色 | シルトまじり細砂 |
| 8. 2.5Y6/6 | 明黄褐色 細砂まじり粘土で10YR6/2 灰黄褐色 | 灰色細砂質極細砂ブロックまじり |
| 9. 2.5Y6/3 | にぶ・黄色 | 細砂まじり極細砂 SX-C14埋土 |
| 10. 10YR6/8 | 明黄褐色 粘土で10YR5/3 にぶ・黄褐色 | 灰色細砂質極細砂ブロックまじり SX-C14埋土 |

SX-C13

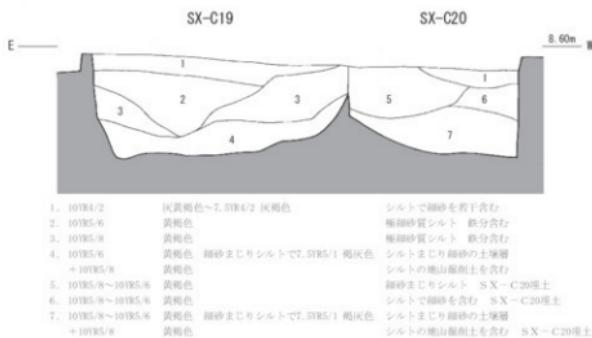
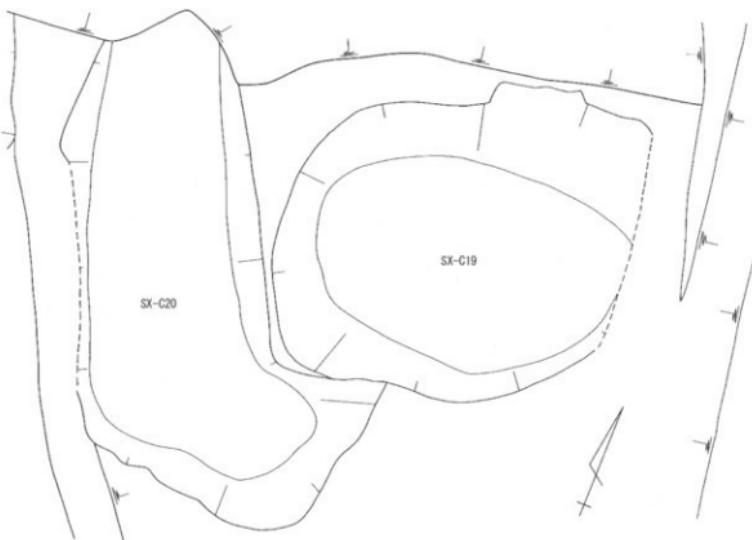
8.00m E



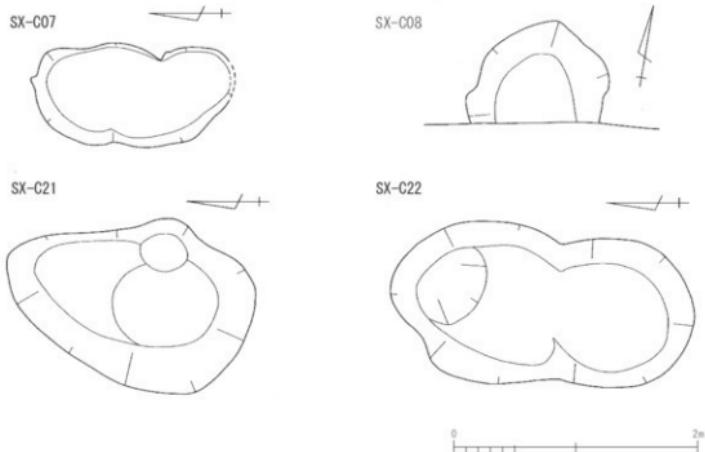
C地区粘土採掘場IV



SX-C19・C20



図版 10

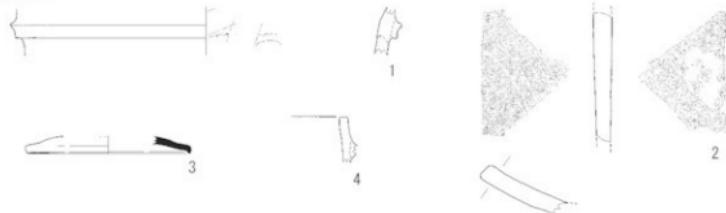


C 地区粘土採掘場VI

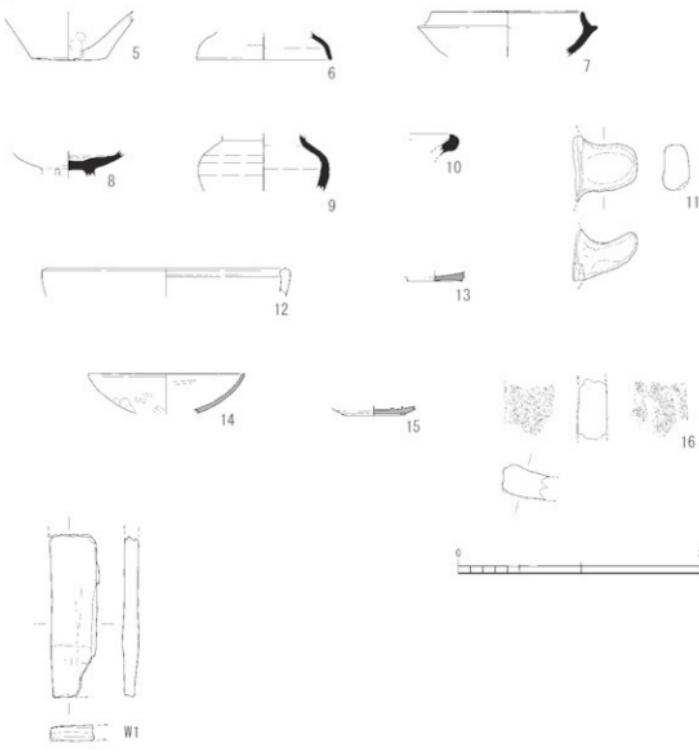
第2表 遺物観察表

報告書号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	出土地区	出土遺構	層位	法量(cm)			
								口径	器高	底径	その他
1	11	4	埴輪	円筒埴輪	A地区		遺構面まで	4.0+α	突起径(32.0)		
2	11	4	瓦	平瓦	A地区		遺構面まで	長さ10.7+α		厚み1.4	
3	11	4	埴輪器	环蓋	A地区		遺構面まで	(13.2)	1.4+α		
4	11	4	埴輪器	羽蓋	A地区		遺構面まで	3.8+α			
5	11	5	生土	泥鰌	B地区	SX-B02 棟出	暗灰色シルト	4.0+α		(6.0)	
6	11	5	埴輪器	环蓋	B地区	南地	茶灰色土中	(11.0)	2.3+α		
7	11	5	埴輪器	环身	B地区	南理	茶灰色土中	(12.2)	3.7+α		
8	11	5	埴輪器	环窓	B地区	SX-B02 棟出	暗灰色シルト	2.2+α			
9	11	5	埴輪器	短頭垂	B地区	SX-B02 棟出	暗灰色シルト	4.75+α		厚度5.4	
10	11	5	埴輪器	环鉢	B地区	上面隠跡		1.8+α			
11	11	5	土師器	把手	B地区	南東隅	長さ5.3	幅5.5		厚み2.1	
12	11	5	土師器	鍋	B地区	SX-B01		(19.4)	2.3+α		
13	11	5	白磁	四?	B地区	SX-B01		1.3+α		4.4	
14	11	5	瓦器	柄	B地区	SX-B02 棟出	暗灰色シルト	(12.8)	3.3+α		
15	11	5	瓦器	桶造部	B地区	南理	茶灰色土下半	1.3+α		5.0	
16	11	5	瓦	平瓦	B地区		暗灰色シルト	長さ4.1+α		厚み2.25	
17	12	6	土師器	壺	C地区	SX-C07				(3.8)	
18	12	4	埴輪	円筒埴輪	C地区	SX-C09				(7.7)	
19	12	6	埴輪器	环身	C地区	SX-C12	最上層	((10.6))	(3.15)	腹径MAX12.6	
20	12	6	土師器	壺	C地区	SX-C13		(23.6)	(9.2)	腹径MAX25.4	
21	12	6	土師器	壺	C地区	SX-C13			(14.7)	腹径MAX30.0	
22	12	6	土師器	壺	C地区	SX-C14			(3.2)		
23	12	6	土師器	壺	C地区	SX-C15			(5.7)		
24	12	6	土師器	把手	C地区	SX-C16			(5.1)		
25	12	5	土師器	壺	C地区	SX-C21		1.35	10.0+α		
26	12	6	埴輪器	环身	C地区	ベースまで	茶灰色土(生)	(9.9)	(2.8)		
27	12	6	埴輪器	壺(?)	C地区	南東半	茶灰色土直上まで	(22.6)	(2.6)		
28	12	6	埴輪器	長頸壺か平瓶	C地区		暗灰色土			(2.7)	
29	12	7	瓦器	柄	C地区	SX-C04 上	茶灰土			(1.8)	
30	12	7	瓦器	柄	C地区	SX-C06	褐色土	(12.8)	(3.35)	(4.0)	
31	12	7	瓦器	柄	C地区	南東半	茶灰色土直上まで	(1.8)		(12.1)	
32	12	7	埴輪器	泥鰌	C地区	北側溝		(3.9)		(9.7)	
33	12	7	埴輪器	泥鰌	C地区	南東半	茶灰色土直上まで	(2.5)			
34	12	7	土師器	皿	C地区	中央	茶灰色土(生)	(11.2)	1.8	(7.3)	
35	12	7	土師器	皿	C地区	西手	遺構面まで	(11.8)	(1.6)		
36	12	7	土師器	皿	C地区						
37	12	7	無釉陶器	香炉か	C地区	南半	茶灰色土(生)~へ~まで			(1.8)	
38	12	7	無釉陶器	すり鉢	C地区	西半	茶灰色土より上が生			(4.7)	
39	12	7	白磁	碗	C地区		茶灰色土(生)			(2.3)	
40	12	4	瓦	丸瓦	C地区		茶灰色土(生)	長さ5.5	幅2.5	厚み1.1	高さ6.3
41	12	7	ガラス製品	ペン触もしくは管	C地区	北側		高さ13.1+α	幅5.5	厚み8.0	
M1	12	6	鐵製品	鐵滓	C地区	茶灰色土より土層		長さ6.1	幅4.15	厚み2.35	重量98.5g
S1	12	4	石器	石匙	C地区	SX-C06	縦灰	長さ34.0mm	幅50.5mm	厚み6.2mm	重量10.0g
W1	11	7	木器	舟材	B地区	SD-B02		長さ7	幅2.0	厚み0.7	

A地区

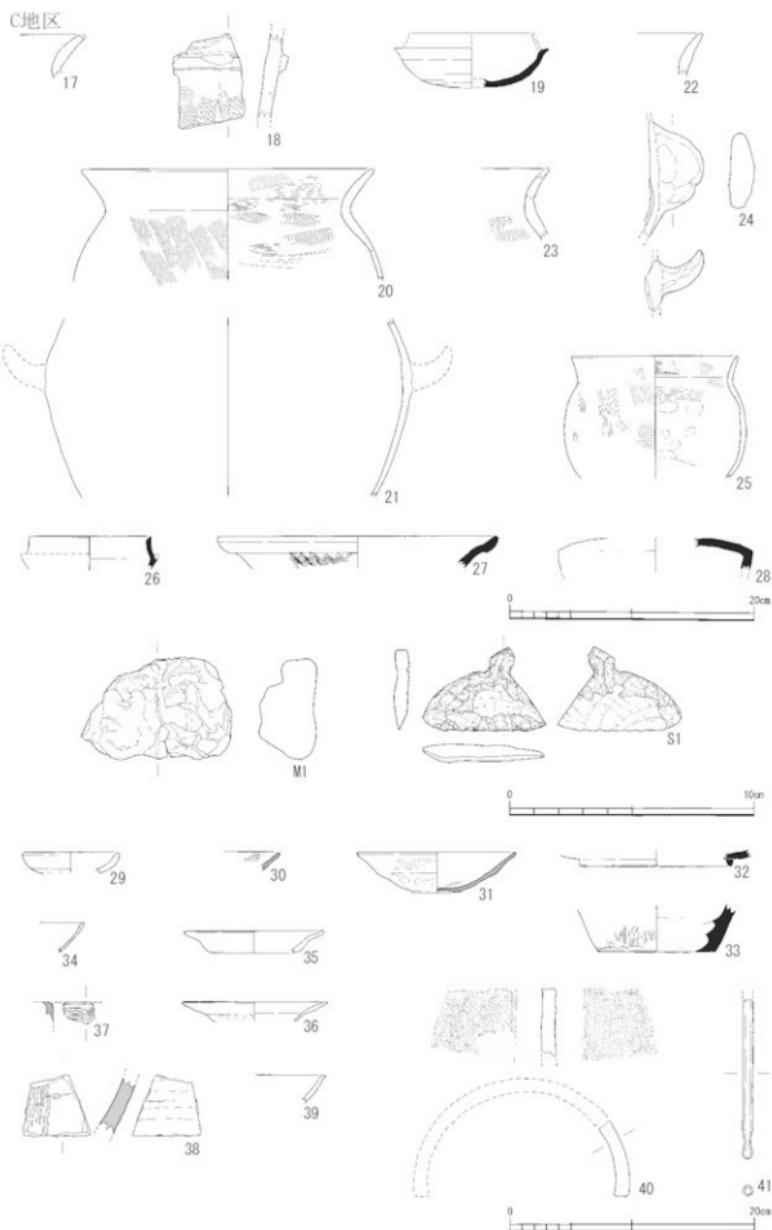


B地区



A・B 地区出土遺物

図版 12



C地区出土遺物

A 地区の遺構

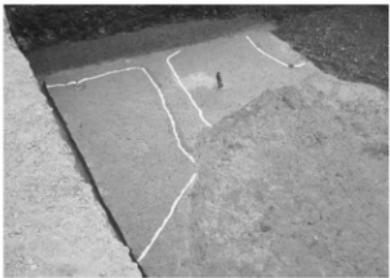


A 地区 全景（西から）

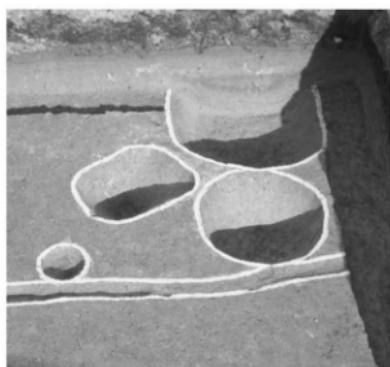
B 地区の遺構



B 地区 全景（北から）



B 地区 畦畔



A 地区 土壙群



B 地区 土壙



A 地区 畦畔状遺構



東壁土層堆積状況

写真図版2

C 地区の遺構



C地区全景（西から）

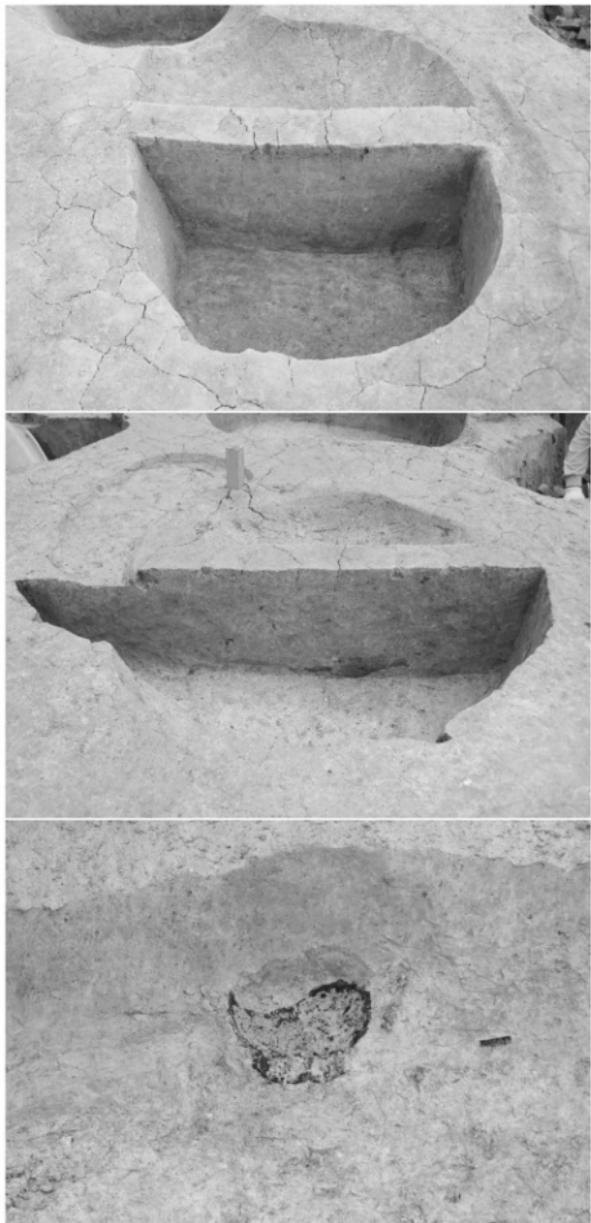


C地区全景（北から）

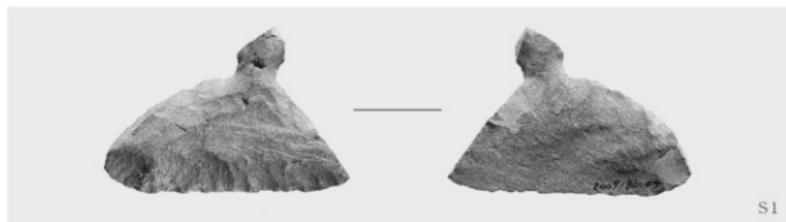


土壤群（北西から）

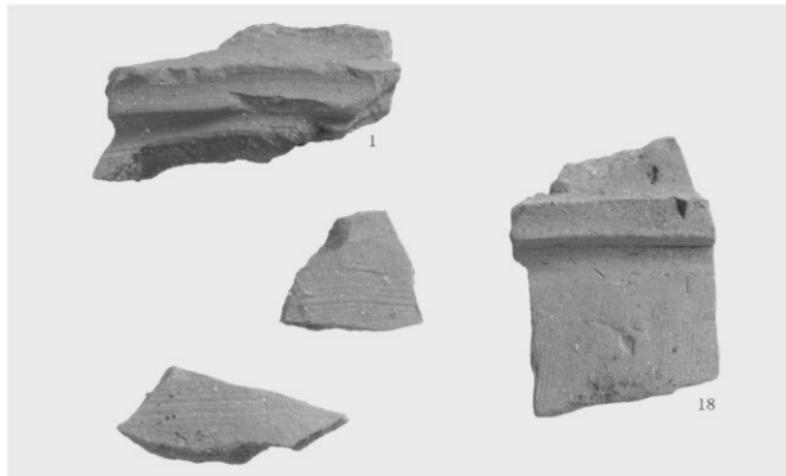
C 地区の遺構



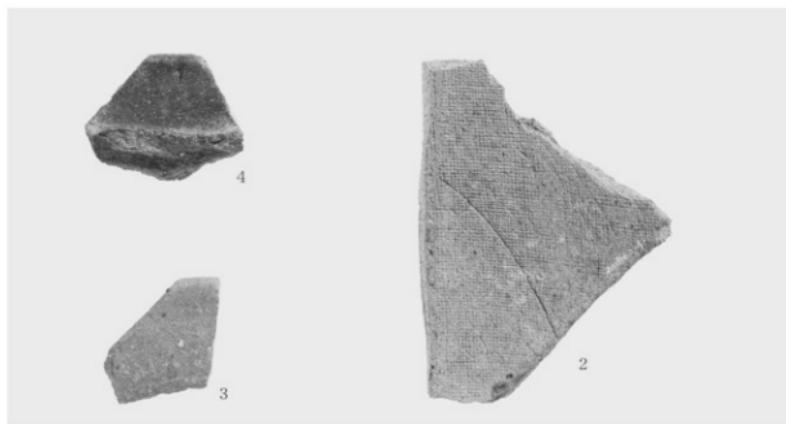
写真図版4



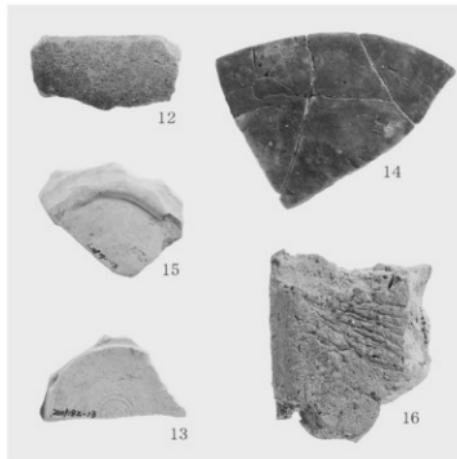
C地区 SX-C06 出土 石匙



南町遺跡 出土 円筒埴輪



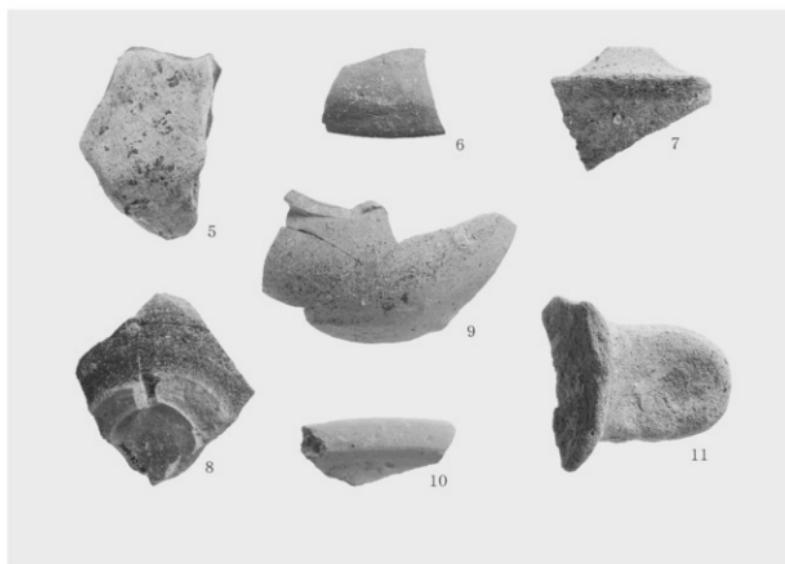
A地区 出土 中世土器・瓦（外）



B地区 出土 中世土器・瓦(外)

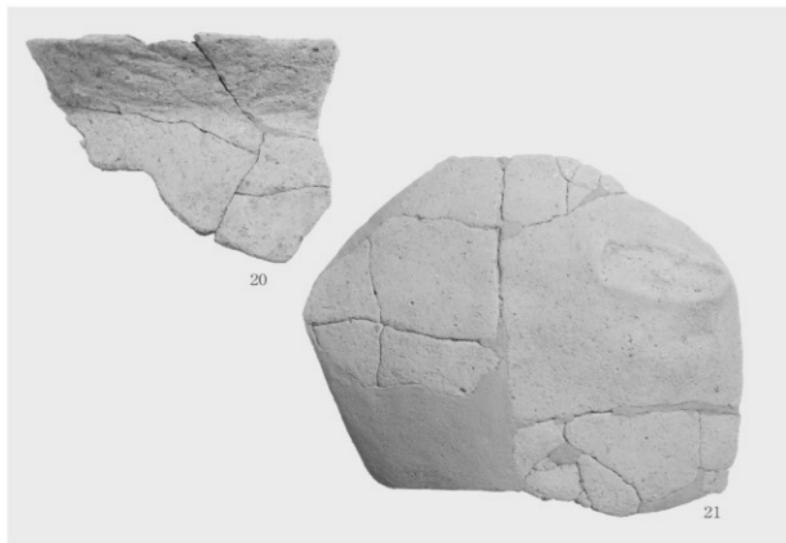


C地区 SX-C21 土器 瓦

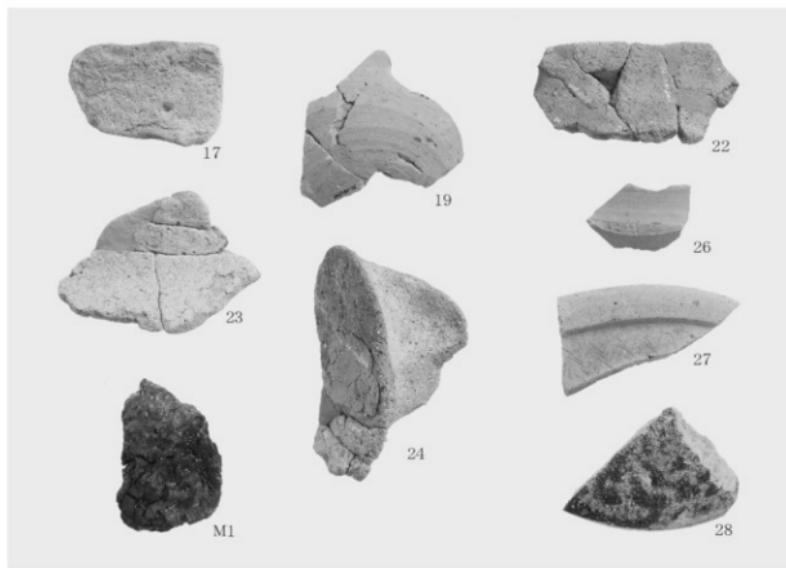


B地区 出土土器 古代

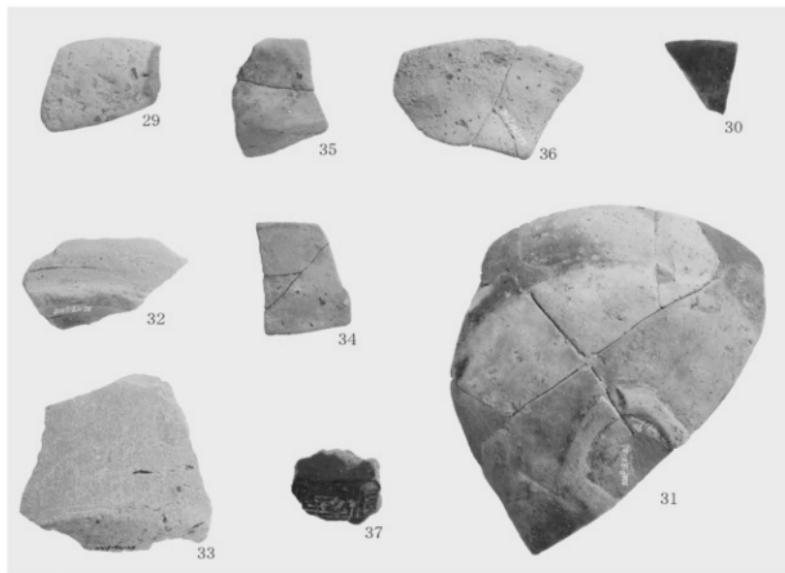
写真図版6



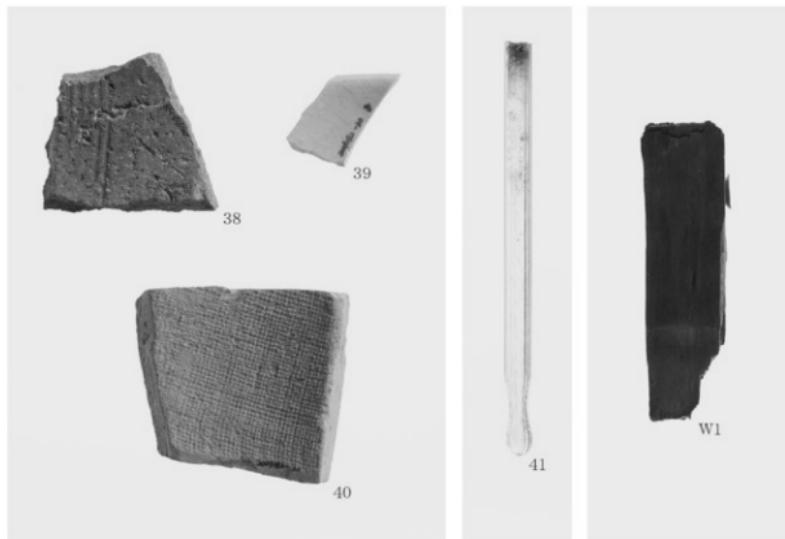
C地区 SX-C13 出土土器



C地区 出土土器・鉄滓



C地区 出土 中世土器I（外）



C地区 出土 中世土器II・瓦（内）

ガラス製品

B地区 SD-B02 出土 木製品

報 告 書 抄 錄

兵庫県文化財調査報告 第443冊

伊丹市

南町遺跡

- 伊丹南町団地建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

平成25（2013）年3月28日 発行

編集：公益財團法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

〒 675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号

(兵庫県立考古博物館内)

発行：兵庫県教育委員会

〒 650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷：株式会社 ソーエイ

〒 673-0898 兵庫県明石市樽屋町6-6
